

# 住友化学グループのサステナビリティ推進の 取り組みについて

2019年11月20日

住友化学株式会社

CSR推進部 福田 加奈子



# 住友化学グループの サステナビリティの推進

- 住友化学の原点
- ステップ1 SDGsをグループの新たな共通言語に
- ステップ2 経営として取り組む

# 住友化学の原点

# 住友化学の始まり

住友肥料製造所

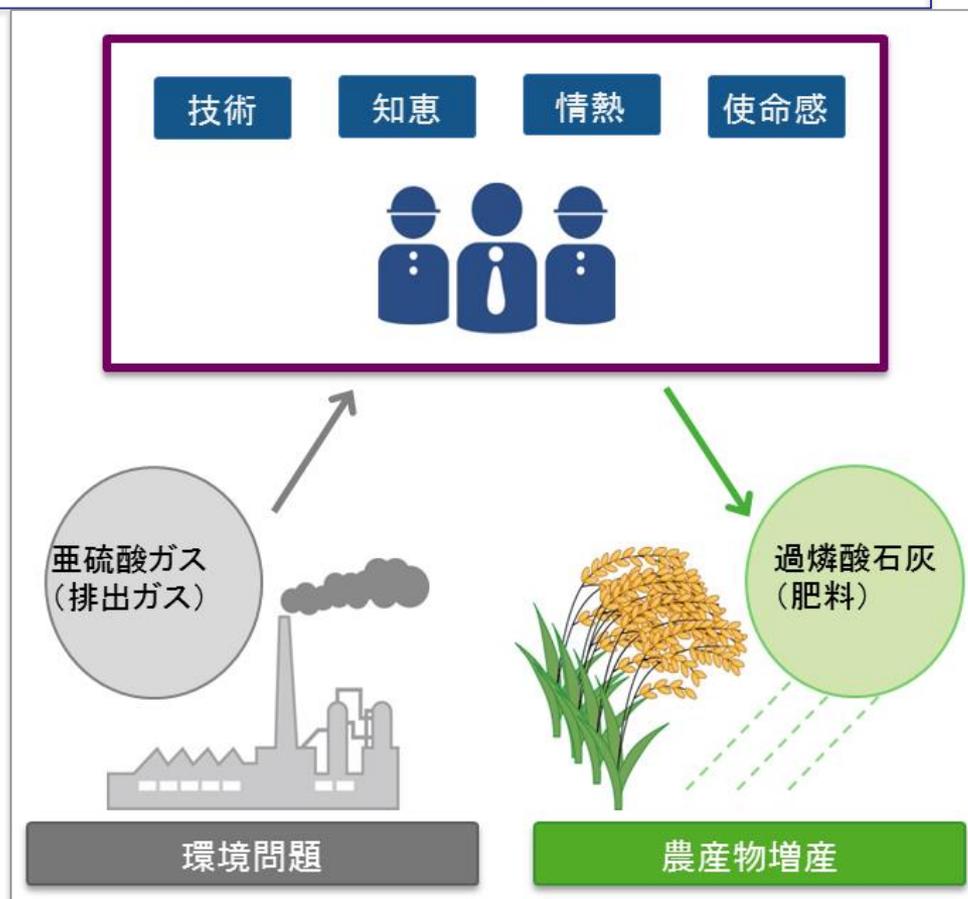
営業開始 1915年10月4日

## 地域と共に発展する 環境問題の克服 + 農業の発展へ貢献



別子銅山(版画)

提供:住友史料館提供



# 住友化学の原点・住友の事業精神

## 住友の事業精神



住友政友像

じりりた

こうしいちによ

**自利利他 公私一如**

事業は自ら利益を得るものであるとともに、  
社会に対しても利益あるものでなければならない。

# 社会の変化・顧客の要望に応え事業領域を拡大

住友化学の100年の歴史

創業から1世紀 —  
時代とともに多様な事業を  
グローバルに展開

> 1913



住友肥料製造所

製錬で生じる揮発の防止を目的に  
住友肥料製造所が発足  
住友の中核事業であった別子銅山で銅製錬の際に  
発生する排ガスの中から有害な亜硫酸ガスを除去し、  
それを原料に肥料を製造したのが住友化学の始まり

> 1944



日本染料製造 春日田工場

ファインケミカル事業に進出  
染料や医薬などのファインケミカル事業を展開する  
日本染料製造を合併

> 1953



ビナミネ工場 (群馬)

農業化学事業に進出  
家庭用殺虫剤  
「ビナミン」の発売から、  
農業化学の事業を  
スタート

> 1958



イトレン工場 (大井)

石油化学事業に進出  
海外から技術を導入し、  
愛媛の大井地区にエチレン工場を建設、  
本格操業を開始

■ 売上高/売上収益\*1・2 1915～1977年：単位 1978～2018年：連結  
\*1 2016年度よりEPS(当期純利益)計算  
\*2 1995年度より会計年度を4～3月に変更、1995年1～3月の売上高は1994年度に当算

1915 1920 1925 1930 1935 1940 1945 1950 1955 1960

住友化学の  
変遷

1915-1944  
化学メーカーとしての基礎づくり

1945-1974  
総合化学メーカーへの成長

1975-2004  
全事業を世界へ

2005-  
グローバル経営の深化

社会の動向

1914-1918  
第一次世界大戦

1929  
世界恐慌

1939-1945  
第二次世界大戦

1954-1973 高度経済成長期  
1964 東京オリンピック

1973 第一次  
オイル・ショック

1978 第二次  
オイル・ショック

1985 プラザ合意  
1989 ヘルシンキの聖樹嶺  
1987 日経平均株価が  
過去最高額を更新  
マンデー

1999 欧州単一通貨  
ユーロ誕生  
2001 米露で同時多発テロ事件

2008 リーマンショック  
2012 欧州債務危機

> 2009



ペトロ・ラービグ 自動車用油 (サウジアラビア)

(億円)

25,000

> 2009



大日本住友製薬が医薬品会社  
セブアコル(現・サノビオン)  
買収 (米国)

20,000

> 2015

エネルギー・機能材料部門  
を新設

15,000

10,000

5,000

0

> 1984

住友製薬株式会社の発足

> 1984



シンガポール石油化学  
コンビナート 自動車用油

> 1988



農業の増産・販売拠点  
ペーラントU.S.A. 設立 (米国)

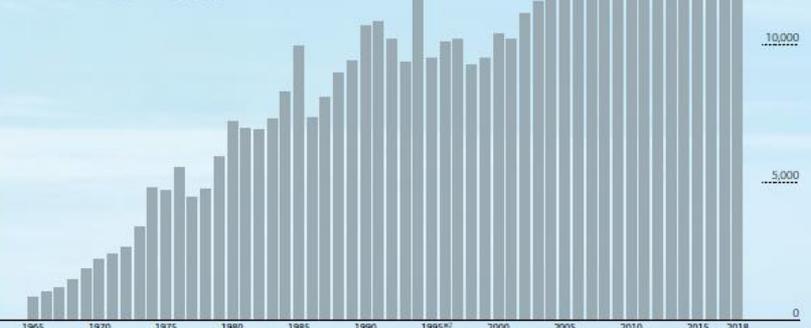
> 1991



東友平塚体高品 (現・東友ファイ  
ンケム) 設立 (韓国)

> 2001

情報電子化学部門を新設



# 住友化学の経営理念

## 経営理念

- ◆ 技術を基盤とした新しい価値の創造に常に挑戦
- ◆ 事業活動を通じて人類社会の発展に貢献
- ◆ 活力にあふれ社会から信頼される企業風土を醸成

ステップ1

**SDGsをグループの新たな共通言語に**

# SDGs : 持続可能な開発目標

**SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS**

2030年に向けて  
世界が合意した  
「持続可能な開発目標」です



サステナブル・ディベロップメント・ゴールズ  
「**持続可能な開発目標** (Sustainable Development Goals : SDGs) 」は、  
2030年までに世界が取り組むべき17目標を掲げています。

# 住友化学のサステナビリティの推進

## T・S・P 三位一体

### トップコミットメント

#### SDGsバッジ



役員が、国連が作製したこのバッジを付けることで、自らのSDGsに対するコミットメントを示すとともに、当社グループの社員へのSDGsの啓発を行っています。

#### 事業を通じて

Sumika  
Sustainable  
Solutions

- オリセット® ネット
- セパレータ 等

住友化学



サステナビリティ  
の実現



全員参加  
サステナブルツリー

# T : トップがコミットする

## あらゆる機会を通じて発信する

### 「トップは本気」を伝える



# S : 事業を通じて (S:Solutions)

## “ Sumika Sustainable Solutions ”

**持続可能な社会構築のためのソリューションを提供  
温暖化対策などに貢献**

当社各部門やグループ会社から推薦された製品・技術について、革新性、環境貢献度等の認定要件から合致するものを認定する制度を2016年から開始。

それらの開発・普及を促進することにより、持続可能な社会を構築するためのソリューションを提供し、SDGsの達成に貢献していく。



# S : 事業を通じて (S:Solutions)

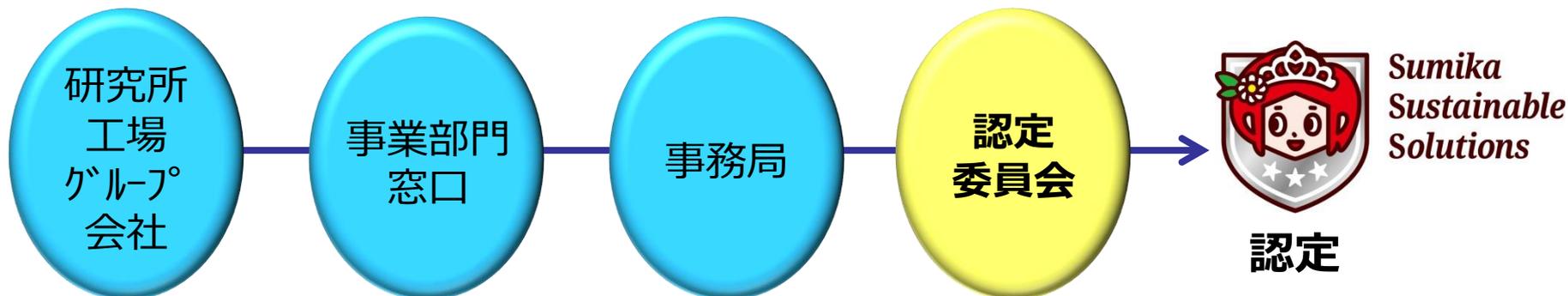
## 制度概要

### 認定要件

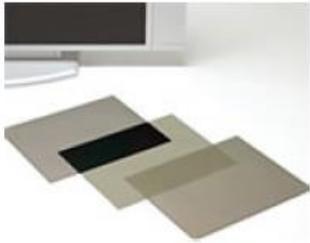
- ① 温室効果ガスの排出削減に資するもの
- ② 気候変動による影響の適応に資するもの
- ③ 廃棄物・有害物質の削減や環境負荷低減に資するもの
- ④ 水資源の効果的な利用に資するもの

ほか5項目

### 認定の流れ



# 認定製品の例

ソリューション	特徴	SDGs への貢献
<p>リチウムイオン二次電池用 セパレータ「ペルヴィオ®」</p> 	<p>リチウムイオン二次電池の高容量設計を可能とする材料で、次世代自動車（電気自動車等）の普及に貢献</p>	
<p>偏光フィルムの製造における UVプロセス</p> 	<p>ディスプレイ材料である偏光フィルムの製造工程で、従来法に比べ大幅な省エネルギーを達成</p>	
<p>詰め替え用包装向けポリエチレン 「スミカセン®EP」 「エクセレン®GMH」</p> 	<p>注ぎ口を手で簡単に切れる特性を持ち、洗剤などの詰め替え用パウチ包装に使用されるポリエチレン。ボトル容器に比べ、ごみの量を低減</p>	
<p>飼料添加物メチオニン 「スミメット®」</p> 	<p>鶏飼料へのメチオニン添加により、飼料中のアミノ酸含有量のバランスを改善。排泄物中の窒素量を減らし、温室効果ガスの排出を削減</p>	

# S : 事業を通じて (S:Solutions)

環境面から貢献する製品・技術を認定 → 見える化  
具体達成目標の設定 → 実効的に貢献

現在： 48製品・技術 売上3,800億円

目標： 2021年度までに 売上5,600億円

# 全員でSDGs 「サステナブルツリー」

- 住友化学グループの全役職員（3万3千人）を対象
- グループ3万人のサステナビリティプラットフォーム（Web）
- 『仕事を通じたSDGsへの貢献』の決意を  
各人あるいは職場で投稿

100日間

投稿数：7,700件

延べ参加人数：3万人

閲覧数：約2万

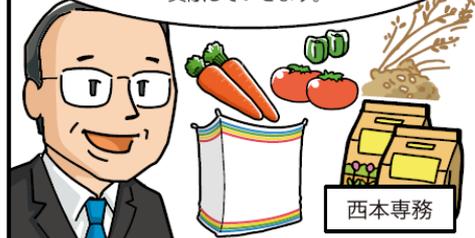


1. 誰もが参加できる・参加しやすい “楽しさ”
2. 強いトップのリーダーシップ
3. 会社として浸透させるべきことをテーマに “SDGs”

## 説明のマンガ

※この漫画は、当社ホームページにも公開されていますので、ぜひご覧ください。

様々な課題がありますね。私たちの事業が貢献できることはたくさんあります。健康・農業関連事業部門では、当社の研究開発力をベースに世界の食糧問題、健康衛生、環境問題の改善に貢献していきます。



西本専務

エネルギー・機能材料部門では、持続可能な社会の実現のため、エネルギーや環境問題の解決に貢献する製品の技術開発と提供を使命としています。



上田専務

医薬品部門では、革新的な医薬品を継続的に提供することで、これからの医療と健やかな生活に貢献します。



十倉社長

当社グループはこれら事業を通じて、3万人の力をあわせて世界の課題解決に取り組んでいきます。

よろしくお願いします!

石油化学部門では、環境に配慮し、良質な製品を安定的に提供し、様々な産業や人々の暮らしを支えています。



大野専務

情報電子化学部門では、情報通信デバイスに欠かせない技術の開発や高品質な製品の提供により、人々の生活をより便利に、そして豊かにしていきます。



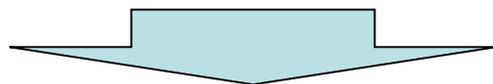
出口専務

持続可能な社会の実現を目指して、当社グループをあげて取り組むグローバルプロジェクト、『サステイナブルツリー』を実施します!



社会課題の改善のために、仕事や生活を通じて自分にもっとできることがないか、一緒に考えてみましょう。

# 『社会への貢献の見える化』



# 『社会に役立つ喜び』





# 食糧問題を解決する



## 100発100中の研究はない



# 環境問題を解決する



# 安全をすべてに優先させる



世界で活躍する  
住友化学グループの社員数です

世界 33,000人



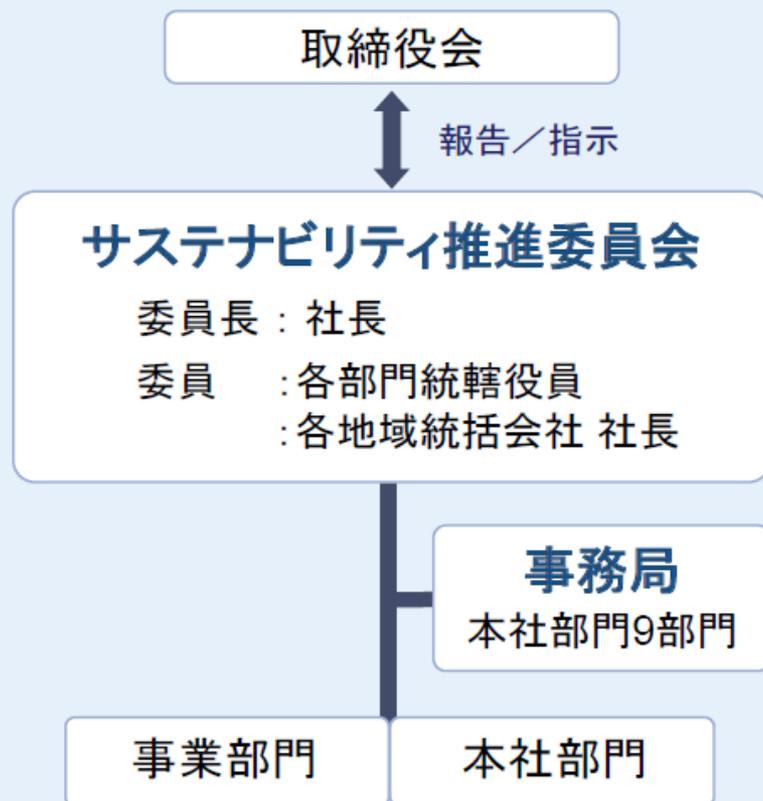
**SDGsの前後で  
大きく変わったのだろうか・・・**

ステップ2

# 経営としてサステナビリティ推進に取り組む

# サステナビリティ推進委員会設置（2018.4）

## サステナビリティ推進委員会体制



### SOLUTION

事業を通じた  
社会の持続的成長への貢献

### INITIATIVE

国際的な取り組みへの参画

### ENGAGEMENT

ステークホルダーとの対話



### 目的

- ① サステナビリティ推進活動を**総合的に**把握
- ② サステナビリティへの貢献を俯瞰的に検証
- ③ SDGsなど社会課題解決へ**統合的な**取り組みを加速

総合的に捉え、統合的に取り組む

# サステナビリティ推進基本原則（2019.1）

## サステナビリティ推進基本原則

原則 1 経済価値と社会価値の創出  
（「自利利他 公私一如」の推進）

原則 2 国際社会の  
重要課題解決への貢献

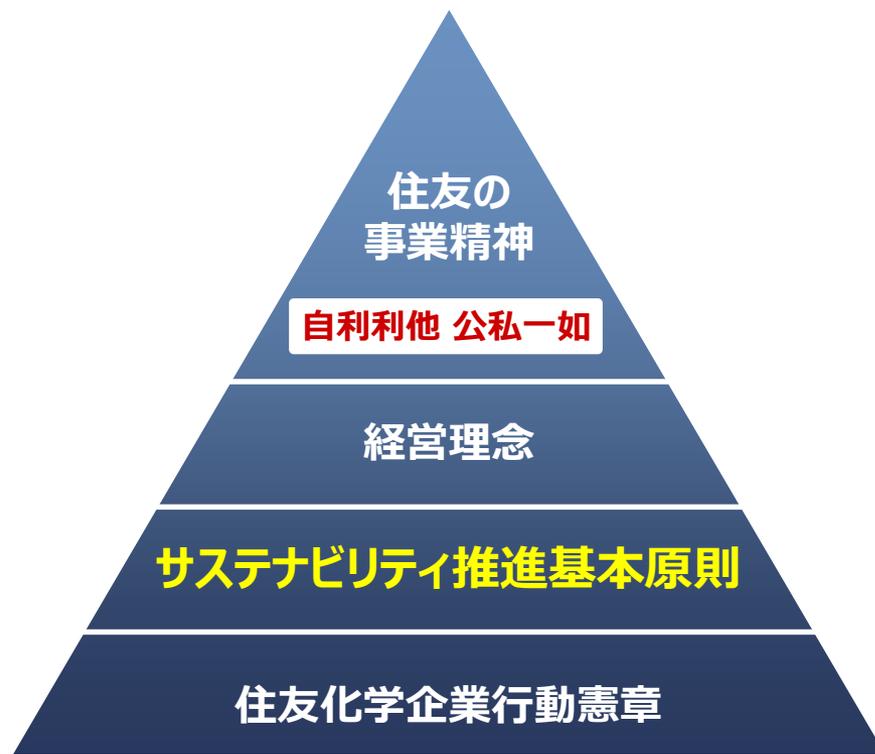
原則 3 関係機関との連携

原則 4 ステークホルダーとの協働

原則 5 トップコミットメントと  
全員の参画

原則 6 ガバナンス

サステナビリティの推進：事業を通じて  
持続可能な社会の実現に貢献すると共に、  
自らの持続的な成長を実現する



次期中期経営計画のスローガン

*Change & Innovation 3.0*  
***For a Sustainable Future***

Society 5.0 (超スマート社会) を見据えて

**デジタル革新**により生産性を飛躍的に向上させ、  
**イノベーション**を加速

▶ **サステナブルな社会の実現**に貢献

# マテリアリティ（経営として取り組む最重要課題）特定

## 社会価値創出に関する マテリアリティ

### 環境負荷低減への貢献

- 気候変動の緩和
- 製品・技術を通じた貢献
- エネルギー・資源の効率的利用
- プラスチック資源循環への貢献

### 食糧問題への貢献

### ヘルスケア分野への貢献

### ICTの技術革新への貢献

## 将来の価値創造に向けた マテリアリティ

### 技術・研究開発の推進

### デジタル革新への取り組み

### ダイバーシティ&インクルージョン推進

**7つの最重要課題に取り組むことで、持続的な価値創出を実現**

今後各マテリアリティのKPI(Key Performance Indicator)を設定する

# 『SDGs に貢献している』

方法：SDGsとの紐づけ  
⇒ 遣り甲斐・使命感

⇒ 『SDGsの達成への貢献』へ

従来の延長線にない解決策  
より大きな貢献のためには？

*Change & Innovation 3.0*  
***For a Sustainable Future***

**化学会社だからできることがある**



# 国連持続可能な開発目標に関する宣言（2019年・札幌）

－ 人々の「健康、安心、幸福」のための化学工学 －



## 札幌宣言

公益社団法人 化学工学会

国連持続可能な開発目標に関する宣言（2019年・札幌）

一 人々の「健康、安心、幸福」のための化学工学 一

人(People)、地球(Planet)、繁栄(Prosperity)、平和(Peace)、パートナーシップ(Partnership)の5つのPを包含した17の持続可能な開発目標(SDGs)を、アジア・太平洋地域の共通の地域目標と共有されたビジョンとして掲げることを経験し、

世界の中で高度成長が見込まれているアジア・太平洋地域において、経済における物質とエネルギーの使用強度が今後さらに高まることを予測し、

近年「気候危機」と表現される目に見える気候の急激な変化の悪影響が、パリ合意やキヤリ改正などの国際環境条約の緊急の実施を必要としていることに直面し、

小島嶼開発途上国(SIDS)が直面する解決が困難な課題、特に自然災害と経済的損害という喫緊の課題を認識し、

国連工業開発機関(UNIDO)が、循環型経済社会とグリーンイノベーションを推進する立場の国連機関として、この宣言の起草と周知に参画していることに謝意を表し、

復興寒冷地において、次世代の子供達が笑顔で暮らせる持続可能な都市モデルの構築を目指す札幌市SDGs未来都市計画を策定し、

化学工学会の理事、個人会員、法人会員は、以下の決意を宣言する。

注：英語のWell-being（ウェルビーイング）は「心身ともに健やかで安心と幸せが齎たされている状態」を指します。本訳では「健康、安心、幸福」と表記しました。

(目的)

1. 本宣言の目的は、

- i. 化学工学会が、化学工学と関連する技術の進歩を通して、人々の「健康、安心、幸福」の増進に貢献することを確かなものとする。
- ii. 持続可能な開発目標(SDGs)の達成のために、化学工学会と協働する多様な分野と地域の学術コミュニティ、民間セクター、および行政を招き入れ、人々の「健康、安心、幸福」の改善を目指す。
- iii. この決意を共有し、宣言の実施を支援するパートナーを広く求めることである。

(Efficiency から Sufficiency へ：効率性を追い求める社会から充足性を感じられる社会へ)

2. 人々の「健康、安心、幸福」を達成するために、物質とエネルギーの使用強度を下げ、プロセスの効率性を高めることに加えて、充足性という本質的概念を取り入れ、人々の労働環境と地球環境を改善することを提言する。
3. 我々は、持続可能な社会の構築の基本的な要素となるグリーン・サステイナブル・ケミストリーを実現する技術を見定めることによって、従来の工学を再評価し、充足性を達成するための新たな枠組みを創造する。

(新規技術の取り込み)

4. 研究開発における優れた取り組みを継続しつつ、我々は新たに登場する技術の迅速な取り込みを一層加速することを重視する。これは、既存の化学工学分野に含まれる技術とその先にある技術の新たな関係を生み出すための機会を作ることによって実現できる。我々は自らの専門性の強化にも資する学際と超学際による事業を結集することに対して中心的な役割を果たすことを目指す。
5. 我々は充足した経済と社会の実現を達成するために、人工知能、IoT、ロボティクス、拡張現実、ブロックチェーン、フィンテックなどを含む新規技術を導入する。

(多様性と包摂性、ジェンダー平等、社会的弱者、難民への認識)

6. 次の10年間で、化学工学分野にて研究や開発を率いる女性の数、学生、研究者、そしてエンジニアを増やすために我々は最善の努力を尽くす。
7. ジェンダー不平等の是正は全員の就業環境の改善に貢献し、全体として公共の「健康、安心、幸福」を向上させると我々は信じる。
8. 我々は包摂性がイノベーションを生み出すと信じており、協働する人々の多様な異なる見解、価値、文化的背景を率先して取り入れる。
9. 我々は社会的弱者、難民、および工学教育・研究能力に不足するコミュニティの経済力強化のために、化学工学の能力開発機会を向上するよう資源を動員する決意をする。

「教育と研究の役割」。

10. 充足した経済の達成と人々の「健康、安心、幸福」の促進に向けて、次の10年間で、新規で包摂的なアプローチを化学工学の教育と研究活動に取り込む。その結果、質の高い教育と研究を通して化学工学という学問が持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献できる。」
11. 我々は、若い化学工学者が異なる世代間・文化間の交流を通して、社会を構成する様々な立場の関係者と共に持続可能な開発目標（SDGs）に沿った研究を推進し、共創することに異なる努力を惜しまない。技術を中心としたシーズと持続可能な開発目標（SDGs）に沿ったニーズという異なる視点からの研究手法を併せ持つことは、人々の「健康、安心、幸福」を改善する化学工学手法の開発を促進する。ここでいう研究は持続可能な開発目標（SDGs）の達成に対する好影響と悪影響の両方の分析を含むべきである。」

「産業の役割」。

12. 産業は安全で、人々が手にすることができる製品を競争の激しい市場に供給することで、環境・社会的課題を解決する。」
13. 我々は、気候変動の緩和と適応策を追求し、効率を改善し、働く人々の「健康、安心、幸福」の達成に向けて、積極的に製造施設の持続可能性の強化に取り組む。」
14. 我々は、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向け、イノベーション、経済成長、雇用創出のそれぞれの分野で、中小企業と大企業が同等に重要な役割を担うと認識する。」
15. 我々は、若い研究者や研究者を志す若者が中小企業と交流し、アジア太平洋地域が直面する課題に協働して取り組むことを積極的に奨励する。」

「地域からグローバルなパートナーシップへ」。

16. 我々は行政、民間セクター、そしてその他の組織とパートナーシップを組み、政治的利害関係とは独立した形で協力し、持続可能性と人々の「健康、安心、幸福」を達成することを目指す。」

「啓発と周知」。

17. 我々は、人々の「健康、安心、幸福」の実現に向けて、一般市民、行政、産業セクター、そして学術コミュニティに対して本宣言の啓発活動に注力する。」

「進捗度のモニタリング」。

18. 我々は、上記の活動についての進捗を管理し、その結果を2年に1度の頻度で適切な化学工学の会議において報告する。」

宣言起草委員会：

ADSCHIRI, Tadafumi 阿尻 雅文；  
AMASAWA, Eri 天沢 逸里；  
FUJIOKA, Keiko 藤岡 恵子；  
FUJIOKA, Satoko 藤岡 沙穂子；  
FUKUDA, Kanako 福田 加奈子；  
FUKUSHIMA, Yasuhiro 福島 康裕；  
GOSHO, Akiko 五所 亜紀子；  
HIRAO, Masahiko 平尾 雅彦；  
IINO, Fukuya 飯野 福哉；  
MATSUKATA, Masahiko 松方 正彦；  
NODA, Suguru 野田 優；  
SAITA, Seichiro 齊田 壮一郎；  
TOKORO, Chiharu 所 千晴；  
YASUI, Naoko 安井 直子；  
YASUNAGA, Yuko 安永 裕幸；

2019年9月27日、札幌、日本；